

第2次派遣隊もあと、2日になりました。

2011年4月10日 (財)日本老人福祉財団
103-0012 中央区日本橋堀留町1-7-7
Tel:03-3662-3611 Fax: 03-3662-3656

雨の中入浴介助

第2次派遣隊長レポート⑤

●今日は朝から強めの雨。浄化センター近くのいつも昼食を買うコンビニには営業しているだろうか？心配しながら出発。コンビニは開いていました。が、中に入るとおにぎり、弁当、パンなどすぐに食べられるものは一つもありません！次のコンビニに行っても何も無い。これも地震の影響です。今日は昼抜きかと思いつながら釜石市に入ったところのコンビニに寄るとパンがありました。ホッとしながらパンを手にとると「頑張ろう！東北！」とラベルに書かれていました。今日はこれを食べ「私たちも頑張るぞ！」と気合いが入りました。

入浴介助・入浴支援のお誘い

- ケアラザおおつち(老人保健施設)に避難されている、Sさん夫妻を、昨日お約束したとおりに迎えに行く。少し早い到着でしたが「待ってました」と準備万端。笑顔で迎えてくださいました。今日は、静岡県ボランティアの女性介護士Kさんが同行してくれています。初めての女性同性入浴支援が実現です。
- お風呂へ向かう車内では、奥様がいつもより多弁であるように見受けられました。これが同性(女性)の介護士の存在のおかげだろうか。あらためて、同性介護の重要性・必要性を感じました。その様子を見て、ご主人もなんとなく、嬉しそうであったように思います。
- 「1ヶ月ぶりの風呂だった…身体が軽くなったようだ」と、ご主人。右股関節を痛めたようで、歩行を心配されていました。「なんだろう、なんともない…ゆっくり浸かれたからかな」と、奥様と笑って話される。気を遣われることなく、支援を心から受け入れてくださった効果であればいいな、と思います。
- 自衛隊のお風呂場の待合室には、入浴時間でないにも関わらず、たくさん子どもたちがいます。飲み物やお菓子もあり、絶好の遊び場となっているようだ。「おばあちゃん、津波で流されて、死んじゃったんだ」一人の女の子が話してくれた。それは淡々とした口調であった。「死」という観念が、その子にとってもっと明確になれば、今回の事柄がより具体的になって、その真実味を実感する日が来るのだろう。「人の命とは？」…その時理解できなくても、いくつかの死を感じることで、きっと本当の意味を知ることができる。それは、「他者の気持ちを汲み取れる」力につながっていくのだろうと、思いながら、彼女が正しい受け止めをできればいいな、と感じました。しかし、まずは、そんな人間になっていなければいけない、と自分にも言い聞かせました。
- ケアラザおおつちで、新しい入浴希望の方に出会える事ができました。Hさんは、息子さんに入浴の支援をしてもらっているそうだが、自衛隊のお風呂までの送迎のみで、浴室では地域の方が目配りしてくれているだけであるそうです。両足が悪く、うまく入浴できず、又、配給へも足を運べないとのこと。同性介助が可能である事を話すと「是非やってほしい」と、手を握ってこられました。必要なものも、あれば物資から探してお持ちする事伝えたと、喜んでおられました。
- それからしばらく、当時のことを切々と語られた。目からは今にも涙がこぼれ落ちそう。「孫のようだね。私の孫も優しくかった…ありがとうありがとう」と、両手で手を包んでくださる。こちらが握り返すたびに、強く優しく、また握ってくださいました。

新しい支援の場所を探しに

大槌町ボランティアセンターでヒアリング

●大槌町社協職員から、避難所等で入浴介助が必要な方についての情報を聞きました。「大槌町の包括支援センターと訪問入浴介護事業所が現在安否確認等を行っている段階」、「町には訪問入浴車が2台

あるが、稼動していないのが現状です。」

- 「避難所には介助が必要で入浴を希望されている方がいると思います。」「直接避難所に行っていただき、話しをするのが一番早い。」「ゆうゆうの里が行っている事はとてもありがたい。」と話されました。この社協職員さん自身も被災されており、デイサービスセンターで寝泊りし業務についているとのこと。

安渡地区 安渡小学校にて

●避難所代表のSさんに話を伺う。現在安渡小学校には273名の方が避難生活をされている。安渡(あんど)エリアには6箇所避難所があり、その代表もされています。この地区は高齢化率45%と他の地区より高いとのこと。



- 話をうかがって、「ここには必ず入浴支援のニーズがあるはず」と確信を持ちました。入浴については1週間に1回自衛隊が来て、送迎されています。しかし、「自分で全てをしないといけないので、介護が必要な方が行けない(入浴できない)」現状です。
- 「自衛隊に要介護者の送迎と入浴時の援助も行ってくださるよう要望しているが、返事はまだ無い」そうです。「〈ゆうゆうの里〉の支援チームが行ってきた入浴援助を利用したい人はいらぬと思う、1週間1度とかサイクルを決めて行ってくれば有難い。」と話されていました。
- 安渡小学校校舎内に避難されている方々から話を伺いました。以前、脳出血を起こし視力が落ち距離感がつかめない方や、視力が悪く歩行が不安な方たちです。「自衛隊の風呂を利用したが、つかまるところが無く、滑りやすく転んだ。」「一人じゃ不安」、「介助してもらえのならば是非利用したい」と、明るい笑顔で話されていました。

山田町社会福祉協議会

●山田町では、「移動入浴車を2台小学校に置き、台を訪問移動入浴として稼働させている。移動入浴の職員も人員が確保できている。民間の移動入浴事業者も動いており、現在ありがたいことにまかなえている。」とのことでした。

大槌高校

●大槌地区で最大の避難者が居られる避難所です。大槌高校の先生より、愛知県保健センターのスタッフが常駐しているのでと紹介してもらい、お話をうかがうことができました。「大槌高校避難所にも、入浴支援が必要な方がいるが、是非とも安渡小学校の避難所で活動をして欲しい。安渡地区は高齢者が多い場所なので」と話されていました。また、歩行リハビリ(付き添い)等もニーズがあるとの事です。地震前はデイサービスでリハビリを受けていた方で受けられなくなった人が多いとも、まだまだ、表に出ないニーズがあるのだと思いました。

避難者の声

- 安渡小学校の教室におじゃまし、避難されている方々を訪ねました。ストーブを真ん中に、談笑されていました。私たちが快く迎えてくださり、避難所生活について話して下さいました。
- 「食事は自衛隊が配給してくれるけど野菜とか肉、魚が無い。3日前から北海道から炊き出しが来た。カニを食べた。けど、今日から元の食事に戻った。」「栄養が偏ってしまう。」「神奈川からの支援物資でアジの干物があつた。私たちは漁師町で育つたので魚は当たり前のように食べていた。けど今は食べる事ができない。頂いた干物を校庭で焼いて皆で食べた。」「焼けた魚の匂いを嗅いだ時、生きていて良かったアーと、しみじみ思った」などと話してくださいました。【9日 22:01】

4月7日までの募金
累計809万円

東日本大震災救援募金(義援金)募集中

〈ゆうゆうの里〉及び本部事務所に募金箱を設置しています

☆寄付先や用途を指定される場合、寄付金控除のための領収書が必要とされる場合は、事務所へお申し出ください。

☆集まった募金は、日赤、共同募金会、NPOなどに送金し、被災地の救援活動や復興資金に充てます。